

2020年度 事業報告

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

公益財団法人不二たん白質研究振興財団

1. 事業の概況

当財団は、1979年（昭和54年）の「大豆たん白質栄養研究会」発足以降、1997年（平成9年）の財団化、さらに2012年（平成24年）の公益財団法人化を経て、2020年度（第24期）には発足41年を迎えました。

例年5月末に行っております研究報告会は、2019年度後半からのコロナ禍の影響と、それに伴う緊急事態宣言発令により、開催を断念せざるを得ませんでした。

本財団事業のもう一つの柱である広報事業では、毎年300名から500名の聴講者を集め公開講演会を開催しております。昨年度は助成40周年の節目の年であり、拡大講演会を計画しましたものの、コロナ禍に加え台風の影響も受け、開催できませんでした。しかしながら、今年度は出来得る限りのコロナ対策を施したうえで、福岡市博多にて開催することができました。

2. 事業報告

1) たん白質に関する研究及びこれに関連する研究を行う者に対する研究助成事業

(1) 2019年度研究報告会の開催

2019年度（第23期）助成課題として採択された被助成者による1年間の研究成果の報告会は、例年通り2020年5月25日、26日に「浜松町コンベンションホール」（港区浜松町）での開催に向け、準備を直前まで続けてまいりました。ところが、コロナ禍による外出自粛、国内移動の制限を伴う緊急事態宣言が開催地である東京を含む全国に発令されるに至り、2020年度の開催を断念いたしました。

直前まで開催を予定していた特定研究課題2題と一般研究課題19題、若手研究者課題10題の計31件の報告については、各被助成者ともに発表の準備をお願いしておりました。そこで今回に限り、その発表資料に解説を加えて報告書とともに書面での提出とし、そちらを選考委員の先生方に送付、評価していただきました。

(2) 2018年度研究報告記録誌の刊行並びに2019年度研究報告記録誌の編集

2018年度（第22期）に採択され、2019年度の研究報告会にて、その助成成果が報告された内容を掲載した研究報告会記録誌「大豆たん白質研究」第22巻を2020年6月に刊行し、関係者、希望者に無料で配布いたしました。本誌はISSN1344-4050、CODEN DTKEFVとして公開され、国会図書館等で閲覧することができます。また、科学技術文献データベース（JICST）での検索が可能です。

また、2019年度（第23期）に採択された助成対象者による研究成果を掲載する研究報告会記録「大豆たん白質研究」第23巻の編集作業は概ね完了し、2021年6月刊行を予定しています。

(3) 2020年度研究助成金の支払い

前年度において採択された2020年度（第24期）の一般研究への助成として、21件の課題に対して総額21,000千円を支払い、また若手研究者枠の助成では10件の課題に対して総額5,000千円を支払いました。同時に、特定研究への助成として、前年度採択課題および新規採択の各1件（計2件）に対して10,000千円を支払いました。これらの研究成果は、2021年5月24日、25日に開催を予定している研究報告会において、助成対象者より報告されます。

(4) 2021年度研究課題の選考

2020年9月～11月の間に財団ホームページに募集要項を告知し、学会誌並びに学会ホームページ等に募集要項を掲載して、2021年度（第25期）の研究助成の課題を募集しました。コロナ禍による各大学での研究進捗の遅れからか、例年に比べ応募研究は大幅に少ないものでした（特定研究2件、一般研究54件、若手研究者枠7件）。

応募課題については、昨年度より選考委員長に就任いただいた東京大学佐藤隆一郎教授を中心に、選考委員による検討がリモート（Zoom）にて2021年1月26日に行われました。特定研究については、本年度は応募の2件とも不採択となり、新規採択はありませんでした。継続課題2件については、研究が順調に推移していることから、引き続き採択とされました。一般研究課題は、特定研究不採択を受け、研究内容の質を十分考慮したうえで、通年よりも4件多い24件が採択されました。若手研究者枠は10件の採用枠に対して応募が7件でしたが、その応募研究の質は全て十分に高いものであるとの判断から、応募の7件すべてが採択されました。この選考結果はすみやかに各研究者に通知されました。

以上、助成総額は37,500千円となっております。

令和3年度（第25期）助成課題選考結果 特定研究

No.	課題担当者	課 題 名
継続 ①	井 上 啓 金沢大学 教授	大豆由来などの植物性たん白質による非アルコール性脂肪性肝疾患の予防・改善作用の解明
継続 ②	居 原 秀 大阪府立大学 教授	活性イオウ分子を基軸とした大豆たん白質及び関連成分の基礎的研究
採択件数		
	継続	2 件
	新規	0 件
		助成金額 10,000,000 円

令和3年度（第25期）助成課題選考結果 一般研究

No.	課題担当者	年 齢	所 属	役 職	課 題 名
1	清水 誠	43	東京大学大学院農学 生命科学研究科	特任准教授	大豆タンパク質βコングリシニンの新たな抗肥満性応答分子の解明

No.	課題担当者	年齢	所属	役職	課題名
2	橋本 渉	53	京都大学大学院農学研究科	教授	植物関連細菌を制御する大豆由来抗菌物質
3	伊藤 圭祐	41	静岡県立大学食品栄養科学部	准教授	食品加工用プロテアーゼにより生成する大豆ペプチドの網羅的味覚受容体応答解析
4	有村源一郎	48	東京理科大学基礎工学部生物工学科	教授	新規免疫活性化剤を用いたダイズの有機栽培システムの確立
5	宮脇 克行	46	徳島大学大学院社会産業理工学研究部	准教授	代謝の光制御によるダイズの高品質化技術の開発とそのメカニズムの解明
6	荻野 千秋	48	神戸大学大学院工学研究科	教授	大豆油廃棄物を用いたバイオ燃料・化学品生産システム構築
7	若杉 桂輔	52	東京大学大学院総合文化研究科	准教授	酸化ストレスから細胞を保護する大豆イソフラボンの新たな作用機序の探索
8	石塚 敏	53	北海道大学大学院農学研究院	教授	オカラシンバイオティクスによる12 α 水酸化胆汁酸代謝制御を介する肝脂質蓄積の抑制作用
9	久田 孝	53	東京海洋大学学術研究院食品生産科学部門	教授	大豆たん白感受性腸内常在菌(SP-SIB) —その増減は宿主の健康に寄与するのか
10	金政 真	44	中部大学応用生物学部環境生物科学科	准教授	大豆に含まれる生体保護機能を有するアミノ酸の生合成機構の解明
11	橋本 善隆	37	京都府立医科大学大学院医学研究科内分泌・代謝内科	病院助教	大豆イソフラボンのメタボライトを介したサルコペニア肥満予防機序の解明
12	神野 尚三	51	九州大学大学院医学研究院	教授	新型コロナ時代のストレスに対する大豆イソフラボンの効果を神経血管ユニットから読み解く
13	亀井 康富	53	京都府立大学大学院生命環境科学研究科	教授	骨格筋機能におよぼす大豆イソフラボンの作用
14	栗原 新	42	近畿大学生物理工学部	講師	大豆由来難消化性ペプチドが腸内常在菌のポリアミン産生に及ぼす影響の解析
15	増田 誠司	55	京都大学大学院生命科学科学研究科	准教授	大豆フラボノイドによる mRNA スプライシング制御機能を介したガン予防のための基盤解析
16	古屋 茂樹	60	九州大学大学院農学研究院	教授	大豆たん白質成分による精神ストレス緩和作用と分子基盤
17	小川健二郎	38	宮崎大学	テェニユアトラック助教	唾液および涙液分泌機能低下に対する大豆イソフラボンの機能性評価
18	高橋 宏和	39	名古屋大学大学院生命農学研究科	准教授	ダイズの耐湿性に関与する二次通気組織の形成調節因子の探索
19	長野 隆男	55	石川県立大学	教授	ナノファイバー化技術を用いた大豆ゲル食品改良剤の開発

No.	課題担当者	年齢	所属	役職	課題名
20	酒井 徹	54	徳島大学大学院医歯薬学研究部	教授	大豆イソフラボンの腸内細菌制御を介した新たなガン免疫チェックポイント療法の開発
21	三ツ浪真紀子	37	Harvard T.H.Chan School of Public Health	研究員	魚類筋タンパク質合成能可視化法を用いた大豆成分の評価
22	平坂 勝也	42	長崎大学海洋未来イノベーション機構	准教授	大豆油廃棄物を用いたバイオ燃料・化学品生産システム構築
23	原田 信男	71	京都府立大学和食文化研究センター	客員教授	豆腐文化の地方的展開
24	原 尚資	42	農研機構北海道農業研究センター	任期付き研究員	高蛋白質ソバ品種育成に向けた蛋白質含量差異の遺伝解析
			採択件数	24 件	
			助成金額	24,000,000 円	

令和3年度(第25期)助成課題選考結果 若手研究者枠

No.	課題担当者	年齢	所属	役職	課題名
1	柴田奈緒美	34	岐阜大学教育学部	助教	食物アレルギー対応と健康を包含した揚げ物調理における生おからの検討
2	古川 希	28	名古屋大学大学院医学系研究科	助教	大豆タンパクによる FGF21 を介した心臓の栄養・代謝制御機構の解明
3	古川 恭平	28	東京大学大学院農学生命科学研究科	特別研究員	ニュートリジェネティクスから見る大豆製品の嗜好性に関する基盤研究
4	斎藤 嘉人	27	京都大学大学院農学研究科	博士後期課程	紫外蛍光反応を用いた非破壊による大豆の豆腐加工適性予測
5	鎌田 健一	29	横浜市立大学	共同研究員	ダイズ-ダイズ根粒菌の共生関係をレクチンから考察する
6	藤 佑志郎	28	理化学研究所環境資源科学研究センター	特別研究員	乾燥ストレス下における多系統ダイズのメタボローム解析
7	TA THI NGOC	23	十文字学園女子大学大学院修士課程	修士課程2年	組織状態大豆たんぱく質を使った20種類のベトナム食事メニュー開発
			採択件数	7 件	
			助成金額	3,500,000 円	

2) たん白質に関する研究及びそれに関連する研究に関する広報事業

(1) 2018年度研究成果の広報

研究報告会記録「大豆たん白質研究」第22巻に掲載された報告内容は、インターネット上で検索システムを付けて公開し、随時閲覧を可能にいたしました。

(2) 公開講演会

栄養士・一般の方を対象に「大豆のはたらきin福岡－人と地球を健康に－」と題して、実行委員長を九州大学教授で選考委員の松井利朗先生とし、2020年11月14日（土）にアクロス福岡(福岡市天神)を会場に3名の先生(茨城大学前学長 三村信男先生、九州女子大学教授 巴美樹先生、岐阜大学教授 長岡利先生)を演者としてお招きして開催いたしました。

1. 21世紀における地球環境の岐路

演者) 茨城大学特命教授(前学長) 三村 信男 先生

座長) 茨城大学農学部 教授・不二製油グループ本社株式会社未来創造研究所所長
中村 彰宏先生

内容) 気候変動に焦点を当て、世界各地で顕在化している気候変動の影響やパリ協定などの世界の取組について紹介。さらに脱炭素社会を目指す動きや気候変動への適応、大豆などの生産と食糧問題などを含む社会のレスポンスによって未来がどのように変わるかを考察、紹介されました。

2. 見直される大豆のちから

演者) 九州女子大学家政学部 教授 巴 美樹 先生

座長) 十文字学園女子大学人間生活学部 教授 山本 茂 先生

内容) 高齢者施設等での大豆タンパク質試験において、高齢者が腎機能に負荷をかけることなく、栄養状態が改善、さらに炎症が抑制される効果を見出した。
また、大豆タンパク質摂取によるパフォーマンス向上効果を検証することで、スポーツ栄養素材としての大豆の可能性を検討されるなど、これまでにない新たな大豆の機能の可能性を紹介されました。

3. 大豆タンパク質・ペプチドの健康機能に魅せられて

演者) 岐阜大学応用生物科学部 シニア教授・教授 長岡 利 先生

座長) 九州大学農学研究院 教授 松井 利郎 先生

内容) 近年、大豆に含まれる様々な栄養成分の研究が活発に展開され、大豆のタンパク質やペプチドの健康機能が明らかにされてきた。大豆タンパク質から生成された配列特異的なペプチドの持つ健康機能についての多くの研究成果を、脂質代謝改善機能を中心に概説されました。

今回の講演会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の状況下であることから、福岡県新型コロナウイルス感染症対策本部まん延防止班の指導も仰ぎ、その指示のもと出席者全員のマスクの着用や受付・発表演台へのアクリル板設置及び質問者用マイクの使い回しを極力避ける等、できる限りの感染防止対策を実施した上での開催となりました。

講演には、福岡県・福岡市内を中心に、会場定員300席の中、上記対策のため150名に定員を制限しましたが、食と健康に関心の深い一般の方々を中心に栄養について学ぶ大学関係者の方々、食品関連企業の方々など幅広い分野から定員を上回る聴講のご希望が寄せられ、先着順に定員の150名の方に聴講券を配布、来場の皆様は各先生の講演を熱心に聴講されました(当日参加者は132名)。

なお、本講演会の模様はビデオに収録し、演者・座長の先生方にもご了解を得て、後日当財団HPで公開いたしました。(https://www.fujifoundation.or.jp/news/article?id=352)

当初、同時配信も実施する予定で計画をしていましたが、準備を進める中で会場側と協議を行い、録画配信のみに変更することとしました。2021年度に向けては、当日配信が可能

となるよう周到に準備を進めたいと考えています。

今後もこのような公開講演会を通して、大豆・大豆たん白の良さを広くお知らせしていきたいと考えます。

3) その他目的を達成するために必要な事業

(1) 事業時報の発行

財団の内容説明と事業紹介のため「時報」第23号を刊行しました。

(2) 事業活動等の公開

2019年度の事業報告・決算報告並びに財務内容、及び2020年度の事業計画・予算を総てインターネット (<https://www.fujifoundation.or.jp>) 上に公開しました。ここには役員・評議員等関係者の随想も掲載されています。加えて、ホームページ中で改訂が遅れていた報告会記録誌「大豆たん白質研究」の検索システムも改訂しました。

(3) 海外への情報発信

英語版HPの改訂につきまして、不二製油グループ、ヨーロッパの地域統括会社 (Fuji Europe Africa) の学術担当Liz Kameiさんに協力を仰ぎ、改訂作業を進めております。運営につきましては、選考委員の先生方のご協力を仰ぎながら進めていく計画を立て、2021年度には運営を開始したいと考えます。

3. 会議等 注) 文書中決議事項は(議)を付した。

1) 理事会

(1) 第1回理事会の開催：定款第44条による決議

日時：2020年5月8日（決議があったものとみなされた日）

事項：2019年度事業報告の承認

2019年度決算に関わる計算書類の承認

定時評議員会(第1回評議員会)招集についての承認

(2) 第2回理事会

2020年5月28日「浜松町コンベンションホール」会議室にて開催を予定したが中止

議題：第1号(報) 2019年度事業報告について

第2号(報) 2019年度決算に関する計算書類について

第3号(議) 2020年度研究助成課題募集について

第4号(議) 2020年度広報事業について

第5号(議) 2020年度日程について

第6号(報) 代表理事及び業務執行理事の執務の状況について

(3) 第3回理事会

2020年5月30日書面での開催（今回限りの特例措置）

議題：第1号(報) 代表理事の選出

第2号(報) 常務・職務執行理事の選出

(3) 第4回理事会の開催：定款第44条による決議

日時：2020年12月28日（決議があったものとみなされた日）

事項：2020年度臨時評議員（第2回評議員会）招集に関わる事項

(4) 第5回理事会の開催

日時：2021年1月26日

不二製油株式会社サイエンスイノベーションセンターを拠点とするリモート会議

議題：第1号(報) 2021年度事業計画案について

第2号(報) 2021年度予算案について

第3号(報) 2021年度研究助成課題の採択について

第4号(報) 基本財産の取り扱いについて

第5号(報) 日程について

第6号(報) 代表理事及び業務執行理事の執務の状況について

第7号(報) 財団情報の海外への発信について

第8号(報) 選考委員への委員報酬支払い時期の変更について

2) 評議員会

(1) 定時評議員会（第1回評議員会）の開催

2020年5月28日「浜松町コンベンションホール」会議室にて開催を予定したが中止

書面での開催に変更した（今回限りの特例措置）

議題：第1号(議) 2019年度事業報告について

第2号(議) 2019年度決算に関する計算書類について

第3号(報) 2020年度研究助成課題募集について

第4号(報) 2020年度広報事業について

第5号(報) 2020年度日程について

第6号(報) 代表理事及び業務執行理事の執務の状況について

(2) 臨時評議員会（第2回評議員会）の開催

日時：2021年1月26日

不二製油株式会社サイエンスイノベーションセンターを拠点とするリモート会議

議題：第1号(議) 2021年度事業計画案について

第2号(議) 2021年度予算案について

第3号(報) 2021年度研究助成課題の採択について

第4号(報) 基本財産の取り扱いについて

第5号(報) 日程について

第6号(報) 代表理事及び業務執行理事の執務の状況について

第7号(報) 財団情報の海外への発信について

第8号(報) 選考委員への委員報酬支払い時期の変更について

3) 選考委員会

(1) 第1回選考委員会の開催

2020年5月28日「浜松町コンベンションホール」会議室にて開催を予定したが中止

(2) 第2回選考委員会の開催

日時：2021年1月26日

不二製油株式会社サイエンスイノベーションセンターを拠点とするリモート会議

議題：2021年度助成課題の選考について 他

附属明細書の作成について

1. 事業報告に関して、その内容を補足する重要な事項はありませんので、附属明細書は作成しておりません。

以上